

2021 年 11 月 11 日

2021 年 10 月度市況

東京洋紙同業会（紙青会作成）

<印刷用紙 A>

平判は学参テキスト関連、製薬関連に動きがあったが、力強さに欠け前年を下回った。前々年比でも 87.7%とまだ厳しい状況となっている。

巻取は生保・損保関連の動きが鈍かったが、金融関連、通販関連では動きが見られ、前年を上回った。ただ前々年比では 94.0%であり、まだ受注量が減少している状況となっている。

（前年比 平判 95.8% 巻取 115.1%）

再生紙平判は依然在庫が安定せず、森林認証紙・一般紙へ移行しており、前年を下回った。前々年比でも 65.6%で厳しい状況となっている。

再生紙巻取は年金関連やコロナ案件の動きも見られたが、前年を下回った。前々年比では 89.1%、再生紙全体でも 72.2%となっている。

（前年比 再生上質平判 82.8% 再生上質巻取 94.5% 再生上質計 86.5%）

（前年比 印刷用紙 A 99.1%）

<A2 コート>

平判は金融、製薬、不動産関連のカタログ、パンフレットやカレンダーなどの定期案件で動きがあった。

巻取は選挙関連、通販向けチラシで動きがあったが、前年を下回った。

緊急事態宣言は解除されたが、各業界においてコロナ禍での自粛が継続されており、各種イベントの中止、延期で印刷物案件全般の需要は減少した。また、昨年は Go To キャンペーンを実施していた為、販売量は昨年比で減少したと思われる。

（前年比 平判 94.4% 巻取 93.9% 全体 94.3%）

（前々年比 A2 コート計 82.0%）

<A3 コート>

選挙関連、百貨店、学習塾、食品スーパー、ドラッグストアのチラシ案件で動きがあり、巻取は前年を大幅に上回った。

（前年比 平判 60.1% 巻取 130.5% 全体 99.1%）

（前々年比 A3 コート計 84.3%）

<ノーカーボン紙>

生損保、金融関連の帳票はノーカーボンからタブレット、ハンディターミナルへの切り替えの影響が顕著にあらわれはじめており、特需的な動きも見られなかった。金融関連の細かい動きが見られたがワクチン接種も落ち着き、前年の Go To トラベル関連が無くその落ち込みもあり、平判、巻取共に前年を大きく下回った。

（前年比 平判 81.9% 巻取 74.4%）

<上質フォーム>

電子化への切り替えも進んでおり官庁関連、納付書等の動きも弱く、議決権案件の若干の取り込みもあったが、コロナ関連特需も落ち着いた影響もあり前年を下回った。

(前年比 90.1%)

ペーパーレスの流れから帳票、通知書のタブレット、ハンディターミナルへの切り替えに拍車がかかっている状況となっている。

<包装用紙>

特殊両更は一般企業向け事務用封筒の出荷に一部回復の兆しがあり、前年を上回った。

(前年比 107.6%)

軽包装は物流会社向け雑包装用途と生花店向け包装用途の需要が回復傾向にあり、大幅に落ち込んだ前年と比べ大きく上回った。

(前年比 122.8%)

片艶晒は大型商業施設の客足が回復傾向である事と、年末向けの包装用途に動きが見られ前年を上回った。

(前年比 109.6%)

両更晒は生命保険、金融機関系の封筒などに動きが見られ前年を上回った。

(前年比 105.2%)

純白ロールは生花店向けでは一部で軽包装などへ移行が見られる事と、土産用途では依然として回復が鈍く前年を下回った。

(前年比 91.8%)

包装紙全体では 112.0%と前年を大きく上回った。

<板紙>

緊急事態宣言が明けたが、依然としてコートボールの土産物関連の動きは低調であった。

特板はテイクアウトが堅調だった。一方、POP 関連は一服感があり低調であった。

チップボールは出版関連が安定していたが、パッケージ向けは 9 月の反動で低調であった。

ただエンタメ系の DVD 関連で一部動きがあり全体では前年を上回った。

(前年比 104.0%)